

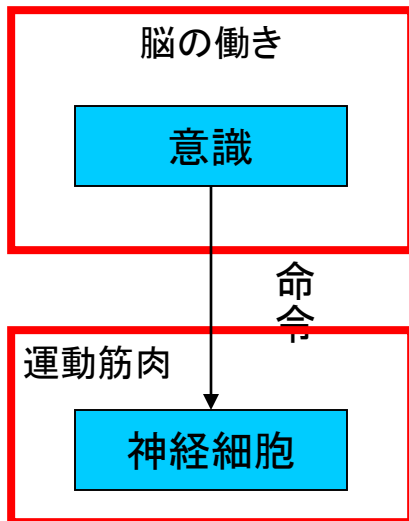
意識と行動

脳の働きと意識

●席を立つ、食べ物に手を伸ばす、あるいは公認会計士の試験を受けるために勉強するなどの行為は、自分の主体的意志によるものであろうか？以下のように人間の行動は意識的に行っているのではないことが実験によって証明されている。

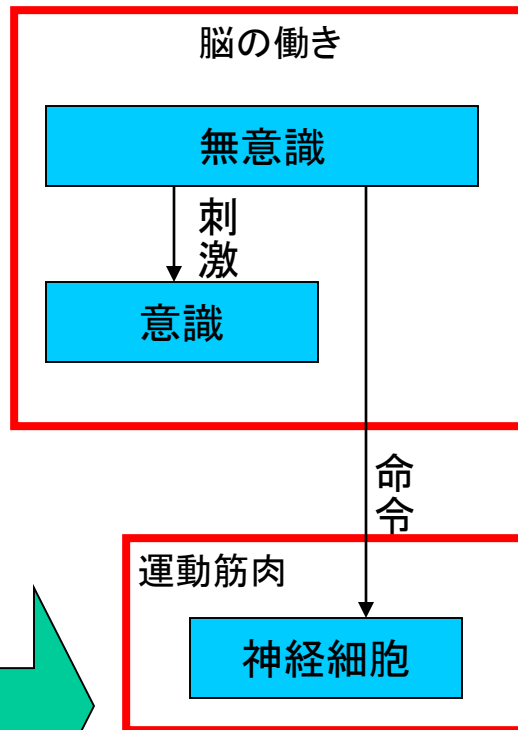
席を立てという命令

●誤った命令系統



ここでもし、「立て」という無意識からの命令によって、意識するよりも先に筋肉が動作したとしたら、意識は動作の主体ではなく(動作したという)単なる追認行為に過ぎない。(しかもそれは今更否認できない)

●正しい命令系統



●人はまず脳内にて意識を働かせ、席を立つという動作を行うことを決め、脚や腰などの筋肉に「動作せよ」と命令を発することによって行動すると思われていたが、実は、最初は無意識の働きがあり、それが筋肉に命令を出すと共に意識を喚起させる。従って意識が形成されるより先に動作を行っていることになる。(公認会計士の試験を受けるために勉強するという意識に先だって行動している。即ち意識的にその行為を為すと決めるより先に無意識的な働きによって行動を行っていることになる)

その無意識の作用はどこから下される命令によるものだろうか？そこに命令を発動する主体などは無く、ただ自然の流れとしてそのような一連の動作が起こっているに過ぎない。全ては川の水が自然に流れるように、原因と結果が次々に喚起されているに過ぎない。そこには根源的な要因など存在しない。人間の行動はこのように意識的に行っているわけではない。

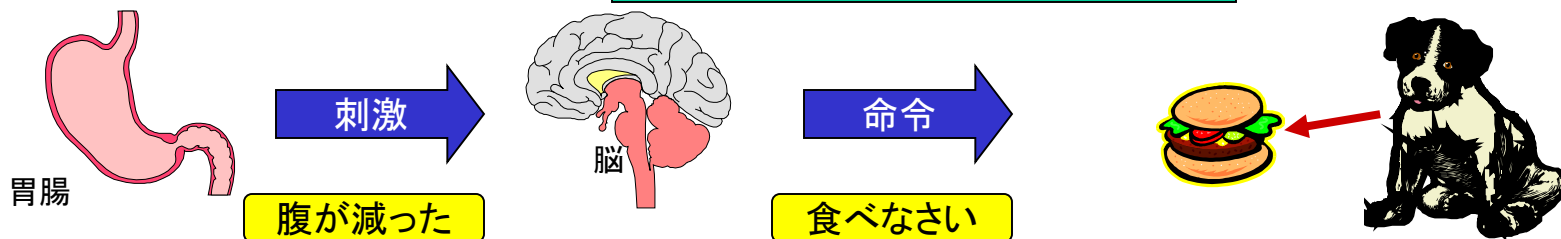
主体的存在とは

主体的存在とは、自身の意志によって行動を選択できるもの。人間も動物であるから、何かを食べたいなどの欲望が起きる。しかし人間は、「食いたい」→「食べる」とはならない。食べるべきか食べざるべきかを選択できる。それに対して犬や猫は、「食いたい」という欲望が起きれば、無条件で「食べる」しかないのである。それでは「主体的存在」とは言えない。外界からの作用を受け、シナリオどおりに行動している単なるロボットに過ぎない。

それに対して人間は、目的に照らして行動を主体的に選択している。その行動が目的に添えば実行し、目的に反すれば実行しない。そのためには生きる目的、即ち何のために自分は生きているのかが明確であることが求められる。そうでなければ犬や猫と同じである。

非主体的存在

行動は一連の流れに過ぎない



主体的存在

